

令和6年度 学 校 総 合 評 価

富山県立呉羽高等学校

◎ 今年度の重点課題に対する総合評価

本校では、「調和のとれた豊かな人間性を有し、力強く道を切り開く社会に有為な人物」を育成することを目指して教育活動を推進している。今年度は、具体的方策として6項目12の達成目標を定めて取り組み、概ね目標は達成した。一方で、学習、生徒指導、特別活動等で課題も残った。

「学習活動」については、互見授業の取り組みが授業の創意工夫や指導法を検討する機会の増加に繋がると学校評議員に評価されたが、生徒の学習への主体的な取り組みの指標となる家庭学習時間の確保は目標を達成できなかった。今後、互見授業の事前、事後研修を充実させ、教材開発への意識を高め、より一層授業の改善や充実を図ることで、生徒の主体的に学ぶ意欲の喚起につなげたい。

「生徒指導」については、生徒会校紀委員会の自主的な取り組み等もあり、「挨拶」や「服装」では十分目標を達成した。一方、スマートフォンの使用時間や利用方法に関する意識の向上については、目標に達しなかった。学習時間、生徒指導上の問題等多方面と係わる問題であることから、場面をとらえ継続的に働きかけ自ら考えさせていく必要がある。

「進路指導」については、3年間を見通した計画的な進路指導によって概ね目標を達成した。学校評議員からは、「大学招請講義」や「合格体験記」など、生徒の進路意識を高める取り組みとして評価された。今後は、学習への内発的動機付けとなるような、さらに積極的な進路指導を目指したい。

「特別活動」については、学校行事への取り組みにおいて、生徒は意欲的に参加し充実している結果となった。ホームルーム役員、委員会活動に積極的に取り組んだ生徒が9割を超え、学校行事と直結する委員会活動の充実度が高い傾向にある。

「図書館活動」については、図書館だよりの定期的な発行やビブリオバトルの実施等により活発に活動することができた。

「PTA活動」は、学校とPTAとが連携しながら芸術祭等の行事を充実した活動にすることができ、参加者の満足度も高かった。

「校内美化」は、学習環境を快適に保つために美化委員を中心に啓発活動を行い清掃を実施した。

◎ 次年度へ向けての課題と方策

生徒が主体的に学び、他者と協働しながら心身とも健やかに学校生活を送り、高い志をもって進路選択できるよう支援していかなければならない。国内外の社会情勢が変化し教育に寄せる期待が高まるなか、本校においては、個々の生徒の特性に適切に対応し、より一層の伸長を図るよう適切な教育や指導を実践し、教育目標を実現していかなければならない。

令和6年度 呉羽高等学校アクションプラン - 1 -

重 点 項 目	学習活動（学習指導の充実）	
重 点 課 題	家庭学習の充実と教科指導の充実	
現 状	①本校生徒の進路目標達成のためには、日々の授業を大切に、生徒が計画性をもって生活時間を調整しながら学習に取り組む続けることが必要であるが、各学年の目標とする家庭学習時間は確保されていないのが実状である。生徒の実態把握に努め、生徒が主体的にかつ具体的に学習計画を立てて実践できるようになるための指導が必要である。 ②「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の改善について、互見授業を活用し、各教科部会を中心に研修している。互いの授業を参観する機会は増えているが、ICTの効果的な利用も含め、指導内容や指導方法についてさらなる授業研究が必要である。	
達 成 目 標	①生徒の平日家庭学習時間 1年生 2.0時間以上 2年生 2.5時間以上 3年生 3.0時間以上 ※学習実態調査より	②互見授業に積極的に参加し、教科部会等で意見交換をする。
	① 70%以上	② 各自、互見授業に年間2回以上参加
方 策	・家庭での生活実態を記録させ、予習・授業・復習のサイクルを確立するためにはどのような時間の使い方をしなければならないかを、生徒自身に考えさせる。 ・授業や考査・レポート等により学習状況や学習到達度を把握し、適切な課題を設定して生徒の意欲を引き出す。 ・個人面接を重視し、生徒一人ひとりに合った学習方法を工夫させるとともに学習時間増加推進に取り組ませ、進路目標の達成を図る。	・互見授業週間を設定し、様々な授業を見学できるように、教科の枠を外して実施する。 ・互見授業後の振り返りや、学校外で行われる研修会や公開授業への参加報告など、授業改善のための校内研修を実施する。 ・ICTの授業への活用については、その長所・短所を把握し、さらに効果的な利用法について、研究を進める。
達 成 度	①1年 1学期：65.9% 2学期：47.3% 2年 1学期：29.5% 2学期：28.5% 3年 1学期：17.2% 2学期：62.7%	② 71.1%（平均見学回数 4.2回）
具 体 的 な 取 組 状 況	①面接で進路目標を確認しながら質問教室や各教科のコンクール、集中学習会等を行い、学力向上、学習意欲の喚起に努めた。	②期間中の自由な見学を促した。各教科で、授業改善のための教科部会も実施し、授業の工夫について検討した。
評 価	① C 目標には届かなかったが、昨年度比較では、1年はほぼ変わらず、2年は両学期とも、3年は2学期の達成割合が約10%増加した。	② B 参加回数の多少に差があった。他教科の授業を見学すると参考になることも多いので、さらに参加を促したい。
学 校 評 議 員 の 意 見	・互見授業は、とてもよい取り組みである。先生が生徒のために切磋琢磨している姿は、生徒によい影響を与える。 ・互見授業の取り組みは、授業の創意工夫や指導法を検討する機会の増加に繋がり、生徒の家庭学習の充実に結びつく。	
次 年 度 に 向 け て の 課 題	・互見授業の事前・事後研修を充実させる。 ・指導法を工夫している姿を見せることで、生徒の主体的に学ぶ意欲を喚起する。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和6年度 呉羽高等学校アクションプラン - 2 -

重 点 項 目	学校生活（生徒指導）			
重 点 課 題	①「挨拶」を自主的に行い、自覚を持って「服装」を正しく着用する生徒の育成。 ②スマートフォン・携帯電話について、節度のある使用が自主的にできる生徒の育成。			
現 状	① ここ数年継続して、「挨拶」と「服装」に重点を置いて指導してきた結果、生徒たちの挨拶は少しずつよくなっていると感じている。また制服については、5月～10月の期間を生徒が各自の体調や気温にあわせて冬服・合服・夏服を選んで着用する「制服選択着用期間」とし、生徒の自主性を育む指導を行っている。 ② スマートフォン等の利用の仕方については講話・集会等で指導しているが、XやLINEなどのコミュニケーションツールや多様なアプリの使用により、スマートフォンを手放せない生徒が多い。日頃から、スマートフォンの使用時間や適切な利用の仕方について考えさせる指導が必要になってきている。			
達 成 目 標	① 「挨拶」、「服装」に関する日常の取り組み〈自己評価「いつもきちんとできる」、「だいたいいつもできる」の割合〉 ・【挨拶】「授業」80%以上、「校内」80%以上 ・【服装】85%以上		② スマートフォン・携帯電話の使用時間や利用方法に関する意識の向上 〈自己評価「改善している」、「改善しようと思っている」の割合〉	
	75%以上			
方 策	・校規委員会の活動を充実させ、学校生活や諸活動に対する生徒の意欲を喚起し、規範意識を育む。 ・朝の生徒玄関での挨拶や、学校全体で行う学期はじめの「マナーアップ週間」での声かけなどを通し、「挨拶」や「服装」への継続的な指導を行う。 ・各学期に服装指導を実施することで、生徒自身が身だしなみについて考える機会を持たせるとともに、落ち着いた学習環境を維持することに努める。 ・必要に応じて、個々の生徒の状況に応じた個別指導を担任と連携して行う。		・生徒指導部と学年が協力し、集会等で指導を行う。また、スマートフォンの使用状況について調査を行い、使用状況を把握するとともに生徒の自覚を促す。個別面談においても学習状況と合わせスマートフォンの使用状況について確認し、自律的態度の育成に努める。 ・1年生を対象に「SNS 危険防止教室」を実施する。専門家から具体的事例を聞くことにより SNS 利用の危険性について理解を深め、今後の SNS の利用の仕方について考えさせる機会とする。 ・教科「情報」の教員と協力し、情報モラルやセキュリティの意識の向上を図る。	
達 成 度	挨拶の自己評価 1学期 2学期 ・授業 84% 85% ・校内 88% 87% 服装の自己評価 95% 94%		スマートフォン等に関する自己評価 1学期 75% 2学期 70%	
具 体 的 な 取 組 状 況	・各学期始めの1週間を「挨拶・マナーアップ週間」とし、登校時の生徒への声かけなど全教職員で指導にあたった。また、5月と11月には校紀委員会が挨拶運動を自ら企画・実施し、6月の「さわやか運動」期間中には、校紀委員と教職員、保護者が協力して挨拶運動を行った。 ・各教室内に制服の着こなしパターンを明示し、共通理解を図った。		・全校集会や学年集会で、スマートフォン使用ルールについて確認し、節度ある使用を心がけるよう指導した。 ・1学年は、外部講師による「SNS 危険防止教室」を実施するとともに、HR 活動で「スマートフォンとの付き合い方」について話し合った。 ・生徒のスマートフォン使用状況について、フォームを活用し、調査した。実態を把握するとともに、生徒自身が使用時間・方法の改善について振り返る機会にもなった。	
評 価	① A：挨拶・服装ともに目標値を上回った。 ② C：スマートフォン1日平均2時間以上使用の比率は昨年度より下がり改善が見られるが、生徒の自己評価は1学期に比べ下がっている。			
学 校 評 議 員 の 意 見	・挨拶、服装等に自覚を持って生活している生徒が多いと感じるとともに好感を持つことができる。 ・スマートフォンの使用について、その危険性を外部講師に依頼しているのは有効な取り組みである。			
次 年 度 に 向 け て の 課 題	・身だしなみやスマートフォンの使用については、マナーやルールを常に意識して行動できるよう、継続して指導していくことが必要である。			

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和6年度 呉羽高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導の充実）
重点課題	進路意識を高め、進路目標の実現に向けて学力を向上させる。
現 状	・進路目標が漠然としているために、受動的な学習に終始する生徒が多い。 ・自己の能力や適性を的確に評価しようとする意識を高め、主体的かつ持続的に考えながら進路目標を設定し、その実現に向けて努力していけるよう、継続的に支援していく方策を工夫する必要がある。 ・目標の設定や実現のための方策を示し、学期や学年の進行とともに進路意識を熟成させられるような支援システムを構築し、教員間で共有していく必要がある。
達成目標	・第1学年：文理選択・科目選択を、十分検討した上で決めることができる。 ・第2学年：具体的な進路目標を、十分検討した上で定めることができる。 ・第3学年：受験計画を、十分検討した上で立てることができる。
	1年生：80%以上 2年生：80%以上 3年生：80%以上
方 策	○3年間を通した計画的な進路指導を行い、生徒・学校・家庭が一体となり進路志望の実現を図る。 ・第1学年…生活習慣や学習習慣を確立させる。「総合的な探究の時間」等で進路研究や興味関心に応じた探究活動を行い、自己理解や適性の把握に努めさせる。また、適切な文理選択を支援するため、漠然とした進路希望を持つ生徒や、進路選択に悩む生徒が自己の適性を知り、自分の将来について主体的に考えられるような機会を設ける。「大学招請講義」では興味関心のある講義を受講させ、学部・学科の内容についての理解を深めさせる。 ・第2学年…大学見学等を通して大学や学部について研究し、自己の適性をふまえた具体的な進路目標が掲げられるよう指導する。「大学招請講義」では興味関心のある講義を実際に受講し、学部・学科選択の一助とさせる。また、「合格体験報告会」では先輩達の進路への心構えや学習法などを実際に聞き、新年度に向けて学習への意欲を高めさせる。 ・第3学年…学年集会や外部講師による進路講演会等を開催し、進路志望実現のための具体的な方策や進路に関する情報を的確に示し、意欲を高めさせる。ゴールを見据えた長期・中期・短期の学習計画を作成させ、その進捗状況を検証し、学力を最大限に伸長させる。 ○個人面接に重点を置いて生徒との信頼関係を築き、学習習慣や生活習慣を振り返らせ、進路目標を明確化させる。併せて、オープンキャンパスや学校説明会への参加を勧める。 ○校内模試や外部模試を有効に活用し、結果を学年会や進路検討会で分析しながら教員間で情報を共有し、授業や個別指導（教科添削・小論文・面接）に活かす。 ○入試動向を調査し、それらをもとに本人の適性や成績・意欲などを総合的に勘案し、適切な志望校選択を支援する。
達成度	《達成目標アンケート（1月実施）》 ① 十分にできた ② だいたいできた ③ あまりできなかった ④ 全くできなかった 1年生… ① 71.6% ② 27.0% ③ 1.4% ④ 0% ①② 合計… 98.6% 2年生… ① 23.5% ② 54.9% ③ 18.3% ④ 2.8% ①② 合計… 78.4% 3年生… ① 24.7% ② 52.2% ③ 20.2% ④ 2.8% ①② 合計… 76.9%
具体的な取組状況	○個人面接（全学年）：各担任が時期を的確に捉えて実施し、生徒の学校生活を支援するとともに進路目標を明確化するように促した。○総合的な探究の時間：（1学年）学問研究・職業研究を計画的に進め、主体的な文理選択をサポートした。（全学年）興味関心に応じた探究活動を行った。また随時、外部講師による指導を実施した。○招請講義（1・2学年）：県内外の大学から講師を招聘し、専門的な学問に触れることで志望分野への興味・関心を高めた。 ○インターンシップ（全学年）：県内の諸団体や大学・企業・医療現場等へのインターンシップへの参加を促した。職業体験としては（1学年）バスツアー、（2学年）研修旅行での企業訪問、看護体験（3学年）を実施した。 ○進路講演会・小論文講座・学年集会・HR等（全学年）：校内テストや外部模試の振り返り、学習実態調査での現状把握等をもとに、改善点を考えさせた。○オープンキャンパス参加（1・2・3学年）：具体的な学生生活をイメージし、大学への適応度を確認するために参加を促した。
評価	B：各学年の達成目標は学校全体で認識されており、その達成に向けての努力がなされていた。
学校評議員の意見	・「大学招請講義」や「合格体験記」など、生徒の進路意識を高める支援や指導について努力している。 ・進路目標の実現には、生徒自身が自己認識する必要があり、個人面談などの重要性を感じる。
次年度に向けての課題	「大学招請講義」については生徒の要望にできるだけ沿うように、関係機関との連絡を密にする。学年全体として行う個人面談については時期や内容を十分に検討し、職員間の共通理解を図る。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和6年度 呉羽高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動（学校行事の周知と委員会活動の活性化）	
重点課題	- 学校行事の広報活動を充実させ、各行事の活動内容を学校内外に発信するために、生徒会が中心となり、生徒や教職員との協力・連携を強める。 - 各行事や各種委員会活動への積極的な参加を促すとともに、活動内容を工夫し活性化を図る。	
現 状	- 学校行事では生徒会が中心的な役割を果たし計画・運営をしている。しかし、一般生徒や教職員にはその活動内容が十分に周知されていない部分がある。そこで、広報活動のみならず話し合いの場を積極的に設けることによって、生徒の主体的な活動を学校内外に知らせ、地域と学校、生徒と教職員が連携する活気溢れる行事を運営できるのではないかと考える。また、生徒に責任と自覚を持たせることによって、興味・関心をより高め、主体的な活動に繋がれると考える。 - 生徒会には現在8つの委員会が設置され、執行部が中心となって学校行事や各種委員会の様々な活動を計画・運営している。また、各ホームにおいても役員、各委員が企画する活動があり、主体的に取り組んでいる。しかし、慣例的な活動の中には、あまり関心が高くないように感じられるものもあり、今後、社会の状況に合わせつつも、より積極的な参加や自主的な行動を促す工夫した取り組みが必要であると考え。	
達成目標	①学校行事の定期的な広報活動	②学校行事や生徒会、HR活動に意欲的に取り組み、充足感を得させる。
方 策	「生徒会だより」 毎月発行 学校行事だけでなく、各委員会や生徒会活動の活動報告や告知を分かりやすく記載し、内容を充実させる。 - 掲示板 多くの生徒の目にふれるよう創意工夫を凝らした内容に努める。 - HPの定期的な更新	- 参加意識を高めるために具体的な計画を立て、生徒議会や生徒総会を通して生徒主体の形で共通理解を図る。 - HR活動に話し合いやグループワーク、学年統一活動などを建設的に取り入れ、生徒の自主性を生かした運営を重視し、指導する。
達成度	「生徒会だより」は月末を目安に全生徒に毎月発行したが、「たまに読む」を含め4割以上の生徒が目を通して回答している。 【1学年：50% 2学年：42% 3学年：43%】 - HPは、行事ごとに適宜更新している。	HR役員、委員会活動に積極的に取り組んだ生徒の割合（*やや積極的を含む） 1年 R4：94% →R5：96% →R6：98% 2年 R4：94% →R5：97% →R6：95% 3年 R4：94% →R5：97% →R6：96% 例年通り全学年で9割を超えてはいる。文化委員、保健委員、校紀委員など、学校行事と直結する委員会の生徒の充実度が高い傾向にある。積極的に活動に取り組む生徒が多いのが本校の特徴である。
具体的な取組状況	- 学校行事だけではなく、各部活動の活動内容や生徒会が中心となって行ったアンケートの結果報告を生徒会だよりだけではなく掲示板を通して適宜行った。（情報の共有） - 各種委員会では、生徒議会での代議員からの意見や公約を基に委員長を中心に、スマホ使用についての呼びかけ、制服着用のルール、あいさつ運動など様々な活動を実施し、生徒会だよりやHP、生徒玄関前黒板に掲載して周知した。	保健委員による企画、冬休みの学習時間を伸ばす方法など、身近なテーマが設定された場合に「話し合いを行った」という達成感が得られている。テーマ設定がカギである。
評 価	B 個々人の興味・関心もあるので、まず半数であることを今後の工夫のベースにしたい。	A 学校行事(体育大会・芸術祭準備)に充当される場合が多く、概ね積極的である。
学校評議員意見	- 活動が身近であると主体的に取り組むようになる。生徒自身に取り組むことで、意識の向上に繋がる。取り組みを工夫していただきたい。 - HR役員、委員会に積極的に取り組んだ生徒が9割を超えていることは素晴らしい。	
次年度に向けての課題	学校行事(体育大会・芸術祭等)への取り組みはしっかりしているので、この積極性を各種委員会活動にも波及させて、委員レベルでもHRを活性化させたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度 呉羽高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	特別活動（図書館活動の充実）	
重点課題	- 生徒の主体的な読書活動を支援し、豊かな心と感性、知性を育む。 「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての図書館機能の充実を図り、生徒が自ら課題を発見し、解決する、探究的な学習活動をしやすい図書館づくりを推し進める。 - 本校生徒の特色を生かすように、計画的に蔵書、資料構成をし、キャリア形成の一助とする。	
現 状	- 読書傾向調査*の結果、読書が「好き・どちらかといえば好き」な生徒は71%いるものの、1週間の読書時間が0分である生徒が56%であり、その割合は年々増えている。年間読書冊数3冊以下の生徒の理由の多くは「勉強・部活動等で時間がない」である。 - 図書館の年間の利用回数は、前年比で5回未満が5%減り、5回以上10回未満が5%増えた。また、10回以上は約11%、40回以上が微増し、一定数の確保はできているものの、5回未満が71%など、生徒全体の利用状況には個人差がある。 - スマホやパソコン等電子書籍による読書をする生徒は20%で、微減した。 - 図書館を、教室以外の居場所として利用する生徒もいる。 *読書傾向調査・・・令和5年度1、2年生を対象に、令和6年1月実施。	
達成目標	①図書館だより、新着図書案内の発行回数	②1ヶ月平均の図書館入館者数（延べ人数）
	年10回	550人以上
方 策	- 図書館だより「Library」や掲示物を年10回程度定期的に発行し、新着図書案内や情報提供を行う。 - 図書委員会が企画、運営する図書館行事により、また、本のポップの作成や展示により、読書の楽しさや図書館の親しみやすさをアピールする。 - 読書センターとしての機能を充実する。 1、2年生には、ホームルームの時間を利用して、生徒同士が読書体験を共有したり、読書記録を作成したりする機会を設ける。 (1)読書の時間 「社会を知るための読書」をテーマとして、新書を読む。 (2)ホームルーム読書会（ビブリオバトル） 生徒同士で本の魅力を伝え合い、読書体験を共有する。 (3)校内読書感想文、感想画コンクール 入賞作品を図書館誌に掲載し、鑑賞する。 3年生には、小論文や面接対策などの図書資料を案内し、進路支援を図る。	
達成度	① 図書館だより11回、新着図書案内11回（見込み）	② 458人（1月10日現在）
	1、2年生 (1)朝読書（1週間）と読書の時間（4時間） 一年間の読書の記録の作成 (2)ホームルーム読書会（ビブリオバトル、2時間）での読書体験の共有 読書傾向調査 (3)図書館誌「わかば」での、校内読書感想文・感想画コンクール	
具体的取り組み状況	(1)2、3年生 探究活動の参考文献の提供 (2)小論文や面接などの充実 (3)全教科の意見要望を取り入れた蔵書整備 (4)新聞、雑誌の、探究素材としての活用 (5)音楽書の授業や教員研修、部活動での利用 (6)情報源としての文献とインターネットの選択的利用 (7)その他・随時 教職員研修 ・教養講座、店頭選書、生徒図書委員研修会 ・10月図書館フェアでの図書館利用の発信	
評 価	① B：図書館だよりの配布はしたが、読んでいる生徒は4割にとどまっている。 ② C：学習センター、情報センターとして資料提供を十分にできたとはいえない。学習者のニーズに即応するように実際の図書館運営の在り方を模索していく必要がある。	
学校評議員の意見	- 読書センターとしての機能を充実を図り、生徒の読書活動を支援する取組みを継続する。 - 図書館利用の在り方が変わっていく中、達成目標値の設定を検討する必要がある。	
次年度に向けての課題	- 先進的な事例を参考にしつつ、本校生徒の実態に即応して生徒の読書活動推進の取組みを継続する。 - 教科や探究的な活動の展開に資する図書館機能の充実を図る。	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和6年度 呉羽高等学校アクションプラン - 6 -

重点項目	学校生活その他（保護者・生徒・教職員・地域との連携、校内美化・快適な学習環境の保持）		
重点課題	- 本校教育活動とPTA活動の連携を図るとともに地域の声を聞き開かれた学校づくりに努める。 - 校内美化に取り組み、健康的で快適な学習環境を保つことで生徒の学習や学校生活に対するモチベーションを向上させる。また、学校全体で協力して清掃活動に取り組み、生徒同士の助け合いや協働の精神を持たせる。 - 悩みを抱える生徒に対し、多面的に支援する。		
現 状	- 学校と保護者との関係は良好であるが、各行事への保護者の参加は多くない。 - SPTA懇談会は年2回開催しており、呉高芸術祭の食堂運営、生徒の生活実態等について、生徒・保護者・教職員が意見交換を行う有意義な機会となっている。 - ホームページへの学校行事の掲載率は9割以上だが偏りも見られるので、保護者や中学生、地域の方から、迅速で幅広い生徒の活動の掲載を望む声が聞かれる。 1週間に3日は7限授業があり、清掃時間の設定が遅くなる。生徒はその後部活動の時間となるため時間に追われ環境美化に十分にに取り組むことができていない。 - 悩みを抱える生徒が多様化し、学年や学校だけでは対応が難しい事案も発生している。		
達成目標	①PTA行事等への出席率及び保護者の満足度の向上。	②幅広い生徒の活動や学校行事等のHPへの掲載を、概ね2週間以内に行い、タイムリーな広報に努める。	③年9回の大掃除を利用し、美化委員が中心となり生徒全員が主体的に環境美化に努めるようにする。
	- 保護者の出席率30%以上 - 満足度調査で4以上（5段階評価）	- 掲載する学校行事等を昨年度の数+5 - 学校行事の概ね2週間以内の更新率80%以上	- 大掃除時の重点目標を定め、生徒全員が主体的に美化活動をする。 - 必要時に特別支援委員会を開催し、校内・校外連携を強化することで多面的に生徒を支援する。 - 各クラス大掃除チェックシートの評価を3（ほぼできた）以上とする。 - 定期的な生徒の情報共有とカウンセラーとの連携の機会を設ける。
方 策	- PTA活動のパンフレットやホームページ等を通して各行事の様子を知らせ、保護者の参加意欲を促す。 - 参加した保護者を対象にアンケートを実施し、満足度を調査する。	- あらかじめ掲載する予定の学校行事等を全職員に伝える。 - 学校行事の担当者へ事前事後の更新を促す。	- 校舎内外の美化活動を推進するため美化委員がスローガンを設定し放送による啓発活動を行う。 - 毎回、重点項目を確認しながら美化委員によるチェックシートを使った評価をする。 - 学年やカウンセラーと連携し、適切な時期に生徒の支援を行う。
達 成 度	満足度(出席率) ・PTA総会 3.7 (30.6%) ・PTA講演会 4.5 (18.1%) ・芸術祭 4.5 (96.1%) ・三陸編集委員会 4.7 (95.8%)	- 掲載した学校行事等 46(R5) → 56(R6) - 掲載を予定していた学校行事の掲載率 97.1% - 概ね2週間以内の更新率 89.2%	1学期2回、2学期3回、重点項目を決めて大掃除を実施し、チェックシートでの評価が4.4満点中現在平均3.9であった。 - 定期的に生徒の情報共有を外部と連携しながら行った。
具 体 的 な 取 組 状 況	- 行事の案内・出欠票の回収について各学年と連携した。 - PTA講演会では、子どもが高校生のように活躍すべきことと保護者のサポートをテーマに講演をいただいた。資料も好評であった。 - 芸術祭や三陸編集委員会に役員が積極的に参加し、模範店芸術祭の賑わい創出やPTA会報編集に尽力された。	- 学校行事については、予め担当者への写真撮影と記事作成を依頼した。 - 年度当初の予定にかかわらず、行事の告知や結果については随時掲載した。	- 大掃除において、美化委員が毎回スローガンを設定し、放送による啓発活動やチェックシートを利用した大掃除の評価を行った。 - 定期的に生徒の支援について情報共有を行った。また、必要に応じ外部との連携も行った。
評 価	B	A	A
学校評議員の意見	- これからも保育園との交流活動を行っていただきたい。 - 校内美化、快適な学習環境の保持がストレスなく勉強に集中でき、学習へのモチベーションに繋がるので良い取り組みである。		
次年度に向けての課題	- 今後も学校行事や生徒の活動をホームページに掲載していきたい。 - 生徒主体の美化活動を継続していく。		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）